

て鹿児島からの赴任であり、W・ウイリスの弟子が殆どである。

宮崎県医師会の中で、医学会が分離されるのは或る事情によるのだが、明治廿九年である。このときから、初めて特別講演が導入されており、この初回講師は田中苗太郎鹿児島県立病院院長である。また、総会の相互乗り入れが太平洋戦争まで続けられ、相互に情報交換が行われている。

野球の試合などもしばしば行われ、その記事が残されている。

鹿児島島の医学に多くの恩恵をうけながら宮崎の医学は発展したと言えそうである。

この種の本には全く見ることのない、医師会のこと、各病院のこと、助看養成のことなど誠に微に入り、細に亘って書かれているのは誠に便利であると思う。

また、特筆すべきは鹿児島大学の紹介ではないだろうか。各教室の変遷、研究テーマ等々種々なことが教えて頂ける。

私は書評のルールを知らない。知らないながら、新しい本にエールを送り得ることが出来ればと思ったからである。『鹿児島島の医学』を読ませて頂き、読みながら、ここで私にも「一口のせて下さい」と書きとどめながら読み終った。

こんなことを書きとどめなくなる、好きな、素晴らしい本だと思ふ。

(田代 逸郎)

(発行・春苑堂出版、鹿児島市中央町一五―二四パークホテル鹿

児島内、電話〇九九二―五一一一〇〇、発売・春苑堂書店、鹿児島市東千石町一―一六、電話〇九九二―二二二―二一三二、平成五年一月発行、四六判、二二五頁、定価一五〇〇円)

### 田中助一著復刻『能美洞庵略伝』

一、本書の復刻刊行に至る迄の経緯

本書は昭和十六年に著者により自費出版されたもので、半世紀後に、内容を補記して再生されたといえる。今回の発行は郷土史家で愛郷心の強い大儀正夫氏の献身的奉仕により実現したものである。

能美洞庵の遠祖が広島県能美島出身である理由から、大儀氏は郷土先人の顕彰事業の一つとして、復刻の刊行を熱望し、田中先生の快諾を得、追補記事を加え、再び世に現われたのである。本書には防長の地でも余り紹介されていなかった能美一族の業績が田中先生の尽力により明かにされ、その説明資料には毛利公爵家記録を用いられ、先生ならではの研究成果が躍如としている。しかも、それが著者の処女作であり、時と場を超えて、医学のみならず教育・文化面に迄活用されることは、著者の学者冥利につきるといって過言ではあるまい。

### 二、体裁

四六判上製布版で一四九頁、使用活字は大きく読み易く、写真は追加分を入れて六頁になっている。初版本は極めて入

手困難な資料であつただけに、今回の復刻刊行は大いに歓迎され、貴重なものとなるであろう。

### 三、内容

能美洞庵七十年忌を記念に刊行されたものである。元禄二年から長州藩医として、能美一族は七代にわたり登用され、洞庵（一七九四—一八七二）は五代目である。ただ洞庵一代の業績のみならず、三代由庵、四代友庵の活動状況が長州を中心に江戸・京都の地に、人物としては小石元瑞・南部伯民・頼杏坪・頼山陽・篠崎小竹・小田海嶺・矢野苦山などが現われてくる。洞庵は毛利藩主の信任も厚く、洞庵の子・隆庵などと共に医学館創設、洋学振興につとめ、牛痘法普及、コレラ予防などに努力した。賀屋恭安・青木周弼・坪井信道など蘭医学との出会いが記載され、研究者には貴重な資料となるであろう。

附録「雪堂詩抄」七十九題は洞庵の晩年における世事・自然・風光・回想などの感懐を連ねた詩稿となっている。

（江川 義雄）

〔溪水社・広島市南区段原日出町一四一五、大儀正夫、送料共に二五〇〇円〕

### 梅溪 昇著『洪庵・適塾の研究』

大阪大学名誉教授梅溪昇氏が、このたび標題の大著を刊行された。著者は昭和二十八年三月に京大人文研究所から大阪

大学文学部（国史学）へ赴任され、先年停年退官された碩学である。『お雇い外国人』、『日本近代化の諸相』など多くの著作を出され、医史学会とも深い関係をもたれている。著者は発足間もなかつた適塾記念会とは四十年間にわたり、その運営にあたられ、また『適塾』の発行には直接たずさわってこられた。従つて数多い洪庵・適塾に関する史料や研究書には精通するとともに、ご自身でも適塾について多くの研究を発表してこられた。本書はこれに加えて未発表の論文も多く収録されたものである。その内容を略記すると、次の三六項目となる。

(I) 緒方洪庵と適塾の歴史的評価をめぐつて。洪庵画像・夫人八重の生活など七項目。

(II) 天保十四年十二月適塾の過書町移転説の根拠となつていた史料について。適塾解体修理工事の開始にさいして。都道府県別塾生名簿など七項目。

(III) 福澤諭吉に関する諸事項、七項目。

(IV) 緒方富雄「蘭学者の生活素描——緒方洪庵伝補遺——」の再検討など六項目。

(V) 洪庵の父・佐伯瀨左衛門の経歴など五項目。

(VI) 適塾と適塾記念会など四項目。

このように内容は多岐にわたり、詳細に論じられている。すべてにつき紹介する余裕はないので、筆者も関連のある適塾の過書町移転年月確定についての項を紹介させていたたく。